

寶曆三年酉十二月

〔書言字考節用集〕乾坤八丈島ハチヤウジマ豆州附庸之地事見殘太平記

〔伊豆海島風土記〕八丈島は伊豆國加茂郡下田湊より巳の方にあたり海上六十里、江戸よりは午にあたり海上百二十里程あるべし、晴天なる夕には伊豆の山々駿河の富士、勢州志州のやまもかすかに見ゆる事あり、又未申の方に當り、島山やうのもの見ゆる、これは薩摩の島々にもあるべしやといふ、是等の見ゆる事は年に稀なり、東南の海限りなきゆへ、常々波高く潮急にして渡海容易からず、古しへより春の末夏の中をたやかなる順風を待得て、船を渡す事とし、しかも國方の船猥りに渡る事あたはず、島船のみ年に一度の往來ゆへ、國地の便尤も稀なり、島の地程は、東西三里、南北へは七里餘、またがり、廻りの磯悉嶮岨にて、或は三四丈あるひは八九丈十丈餘の磐石そばだち、海より陸へあがる事容易からず、海の深さは岸際にては三四十尋、又は六七十尋、半町計も沖にては二百尋三百尋餘もあり、殊に海底岩ばかりにて、泥砂の類曾てなく、此ゆへに來船碇を入る事不能、岸波少しく高き時は洋中に漂ひ、波の治まるを見て船をよせ、巖石の低き處へ木を渡し、或は綱をはへ、島人數百人あつまり、船を岸上へ曳上る故、大船及び蟹舟とも出入甚危して、人力の費ゆる事不少、然るに、より往古より難船破船の憂も多し。

〔伊豆七島調書〕八丈島東四五里程 凡二百里程 江戶より海上

一家數六百拾五軒、人數男二千三百八十七人、女八百二十九人、外に拾軒浮田流人、男二十六人、女十三人

又二拾五軒流人、男七十一人、女五十九人、島出主分、十三人、娘九人

正一位寶明神 神主貞山遠江 正一位姥婆明神 豆州下田海善寺末淨土宗 宗福寺

右同斷同宗 長樂寺

一御用船二艘、但シ長十三間一尺五寸、深サ六尺一寸、船頭水主共拾人乘、御船頭山下與惣兵衛